様式Ｃ－１９

科学研究費補助金研究成果報告書

平成 24 年 6 月 4 日現在

機関番号：11101
研究種目：基盤研究（Ｃ）
研究期間：2007～2010
課題番号：19520004
研究課題名（和文）日本倫理思想史における情念の総合的研究
～『源氏物語』を機軸として～
研究課題名（英文）Overall research on human passions in Japanese ethical thoughts: centering on Genjimonogatari
研究代表者
木村　純二（KIMURA JUNJI）
弘前大学・人文学部・教授
研究者番号：00345240

研究成果の概要（和文）：
本研究は、西洋の哲学が理性主義的な人間観を基調としているのに対して、日本では伝統的に人間を感情的存在として捉えていることを鑑み、日本人の情念の理解について、仏教や儒教・神道・文芸作品等の思想潮流の全体に渡って総合的に考察しようと試みたものである。その際、『源氏物語』を一つの焦点とすることで、体系的連関のある研究にまとめることに心掛けている。本研究の最も主要な成果は、学術雑誌『季刊日本思想史』第 80 号に 6 本の論文として掲載される。

研究成果の概要（英文）：
Reason has been considered as the principal nature of human beings in Western philosophy. In Japanese thoughts, however, humankind is regarded as the more emotional being. This study researched on human passions in Japanese thoughts, especially centering on “Genjimonogatari”. Six articles will be published on “kikan-nihonshisoshi vol.80” as the main result of research.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
2007 年度	900,000	270,000	1,170,000
2008 年度	700,000	210,000	910,000
2009 年度	700,000	210,000	910,000
2010 年度	700,000	210,000	910,000
年度			
総　計	3,000,000	900,000	3,900,000

研究分野：人文学
科研費の分科・細目：哲学、哲学・倫理学
キーワード：日本倫理学、思想史、日本倫理思想史、情念、源氏物語、恋、和辻哲郎

１．研究開始当初の背景

西洋においては、古来、人間を理性的存在者と捉える人間観が形成されていたが、日本においては、むしろ人間を感情的な存在として捉える人間観の認められることが、従来指摘されていた。例えば、本課題の関わる研究分野において言えば、日本倫理思想史研究の第一人者であった相良亨は、日本人が伝統的に「心情の温かさや純粋性」を重んじてきたが、それゆえにこそ母子心中のような命を損なう行為も生じていると問題提起している（相良亨『誠実と日本人』ぺりかん社）。研究代表者の木村は、そうした問題意識を継承しつつ、日本の伝統的倫理観を踏まえた倫理学を構築するため、日本人の「情念」に関する研究を積み重ねて来た。

本研究は、木村と、木村の研究活動に呼応した他の若手研究者たちとが共同して、日本倫理思想史における「情念」の総合的な検討を試みるものである。

２．研究の目的

本研究は、日本倫理思想史における「情念」を、神話・物語、仏教、儒教、国学、近代思想等、さまざまな角度から総合的に捉え返し、情念の把握の歴史的変遷およびその現代的意義について考察することを目的とする。その際、『源氏物語』を一つの機軸に据え、上記の各領域における『源氏物語』論ないし『源氏物語』との影響関係を研究対象として取り上げることで、各領域の研究を並列するにとどまらず、有機的な連関をもった研究となることを目指している。

３．研究の方法

日本倫理思想史における「情念」を総合的に捉え返すことを目指した本研究においては、日本の文芸、仏教、儒教、国学、近代思想等々の各領域に関する専門的な知見が必要とされる。そのため、本研究では、教義の専門領域を異にしつつ、基本的な問題関心を共有した日本倫理思想史の若手研究者が、共同して研究を遂行するという方法を採っている。これは、各領域に細分化しがちな日本思想を統一的に研究する上で、有効な方法であると考えられる。また、そのように多くの思想潮流にまたがらざるを得ない日本思想研究の方法論についても、従来の研究を総括しつつ、考察を試みるものである。

４．研究成果

「5. 主な発表論文等」の欄に記したように、論文 20 件、学会発表 4 件、図書 3 件という充実した成果を挙げることができた。

なかでも研究全体を総括する成果として、学術雑誌『季刊日本思想史』（ぺりかん社）の第 80 号に「『源氏物語』の思想史」特集号が組まれ、研究代表者木村の他、連携研究者の藤村・吉田、および研究協力者の栗原・木澤・板東による論文が掲載されることになっている（2012 年夏刊行予定）。既に論文は提出され入稿中であり、既刊の同誌第 79 号に右の執筆者名も含めて、次号予告が掲載済みである。各論文は、『万葉集』から中古の日記文学・近松戯曲の心中物に至る文芸作品、仏教や神道・国学等の思想潮流、また日本美術史など、様々な思想領域との関連から『源氏物語』の思想を捉え返すものであり、本研究の目的を十分に果たすものとなっている。また日本思想史研究として権威ある同誌においても、これまでに『源氏物語』の特集号はなく、その点から言っても、新たな知見を切り拓く試みとして意義深い研究成果と見ることができる。

また、研究代表者木村による日本倫理思想史研究の方法論に関わる研究成果として、岩波文庫から刊行された和辻哲郎の『日本倫理思想史』（全四分冊）に詳細な註を施し、同書の成立の次第および和辻における日本倫理思想史研究と倫理学体系との連関について論じた「解説」を著した。

５．主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 20 件）

1. 木村純二、「恋の思想史　－『源氏物語』の到達点」、『季刊日本思想史』第80号、ぺりかん社、査読無、近刊
2. 吉田真樹、「六条御息所の生霊化の基底について」、『季刊日本思想史』第80号、ぺりかん社、査読無、近刊
3. 藤村安芸子、「女三の宮の出家」、『季刊日本思想史』第80号、ぺりかん社、査読無、近刊
4. 栗原剛、「『源氏物語』における情死の可能性　―近世町人文学との距離」、『季刊日本思想史』第80号、ぺりかん社、査読無、近刊
5. 木澤景、「極楽浄土のあらわれ　―『源氏物語』と日本仏教における浄土の思想」、『季刊日本思想史』第80号、ぺりかん社、査読無、近刊
6. 板東洋介、「『源氏物語』享受の論理と倫理」、『季刊日本思想史』第80号、ぺりかん社、査読無、近刊
7. 木村純二、「解説３」、和辻哲郎『日本倫理思想史㈢』、岩波文庫、p. 383-426、2011年、査読無
8. 木村純二、「解説２」、和辻哲郎『日本倫理思想史㈡』、岩波文庫、p. 497-526、2011年、査読無
9. 木村純二、「解説１」、和辻哲郎『日本倫理思想史㈠』、岩波文庫、p. 335-372、2011年、査読無
10. 吉田真樹、「近世庶民仏教思想と和辻思想史図式の捉え直し(中)」、『思想史研究』第14号、日本思想史・思想論研究会、p. 1-p. 9、2011年、査読無
11. 木澤景、「『往生要集』の衆生観　―「色相観」と「随喜」―」、『倫理学紀要』第18輯、p. 132-p. 155、2011年、査読無

12. 板東洋介、「技術の思想としての徂徠学」、『倫理学紀要』第18輯、p. 156-p. 180、2011年、査読無
13. 吉田真樹、「近世庶民仏教思想と和辻思想史図式の捉え直し(上)」、『思想史研究』第12号、日本思想史・思想論研究会、p. 1-p. 11、2010年、査読無
14. 板東洋介、「和歌・物語の倫理的意義について　―本居宣長の「もののあはれ」論を手がかりに―」、『倫理学年報』第61集、p. 217-p. 231、2010年、査読有
15. 木村純二、「荻生徂徠における天について」、『人文社会論叢』人文社会篇第 23 号、p. 1-p. 21、2010 年、査読無
16. 吉田真樹、「『日本霊異記』冒頭話の孕むもの(下)」、『思想史研究』第 11 号、日本思想史・思想論研究会、p. 1-p. 9、2010 年、査読無
17. 藤村安芸子、「日本古代の他界観」、『死生学２』東京大学出版会、p. 27-p. 45、2008年、査読無
18. 藤村安芸子、「自然形而上学と倫理」、『岩波講座哲学６』岩波書店、p. 77-p. 95、2008年、査読無
19. 木村純二、「戦時期の折口学」、『人文社会論叢』人文社会篇第 20 号、p. 19-p. 42、2008年、査読無
20. 木村純二、「隠遁と老い」、『倫理学年報』第 57 集、p. 35-p. 48、2008 年、査読有

〔学会発表〕（計 4 件）
1. 板東洋介、「情念と形式　―謡曲『砧』を手がかりに」、日本倫理学会、2010 年 10 月 9 日、慶應義塾大学
2. 木澤景、「「臨終」とはいかなる時節か　―『往生要集』の臨終の行儀―」、日本倫理学会、2009 年 10 月 18 日、南山大学
3. 木村純二、「荻生徂徠における天について」、國際學術研討會「天、自然與空間」、2008 年 9 月 25 日、台湾大学
4. 木村純二、「隠遁と老い」、日本倫理学会、2007 年 10 月 14 日、新潟大学

〔図書〕（計 3 件）
①吉田真樹、講談社、『平田篤胤－霊魂のゆくえ』、2009 年、275 頁
②木村純二、講談社、『折口信夫－いきどほる心』、2008 年、278 頁
③藤村（岡田）安芸子、講談社、『石原莞爾－愛と最終戦争』、2007 年、230 頁

〔産業財産権〕
○出願状況（計 0 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況（計 0 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

６．研究組織
(1)研究代表者
木村　純二（KIMURA JUNJI）
弘前大学・人文学部・教授
研究者番号：00345240

(2)研究分担者
岡田(藤村)　安芸子
（OKADA(FUJIMURA) AKIKO）
駿河台大学・現代文化学部・准教授
研究者番号：20323561
（2007 年度のみ、2008 年度から連携研究者）
吉田　真樹（YOSHIDA MASAKI）
静岡県立大学・国際文化学部・准教授
研究者番号：20381733
（2007 年度のみ、2008 年度から連携研究者）
朴　倍暎（PARK　BEAYEONG）
日本女子大学・人間社会学部・准教授
研究者番号：70361558
（2007 年度のみ、2008 年度から研究協力者）

(3)連携研究者
岡田(藤村)　安芸子
（OKADA(FUJIMURA) AKIKO）
駿河台大学・現代文化学部・准教授
研究者番号：20323561
（2008 年度から）
吉田　真樹（YOSHIDA MASAKI）
静岡県立大学・国際文化学部・准教授
研究者番号：20381733
（2008 年度から）

(4)研究協力者

栗原　剛（KURIHARA GO）
都留文科大学・文学部・非常勤講師

木澤　景（KIZAWA　KEI）

東京大学大学院人文社会系研究科・博士課程在籍

板東洋介（BANDO　YOSUKE）

東京大学大学院人文社会系研究科・博士課程在籍